

エコアイランド宮古島宣言 2. 0

エコアイランド宮古島宣言から10年
持続可能な島づくりを目指して

宮古島市

平成30年3月30日

意義

「エコアイランド宮古島」という言葉は浸透しつつあるものの、市民の抱くイメージにはばらつきがある。

- ▶ エコアイランドとは何かよく分からない。
- ▶ 自分たちの生活とは関わりを感じられない。
- ▶ エコアイランドの取り組みの重要性は理解できるが、どう関わればいいかが分からない。

といった声が多くある中で、市民主体の持続的な取り組みに繋げていくためには、エコアイランド宮古島を再定義し、ビジョンを改めて明確化する必要がある。

宣言2.0のポイント

バージョンアップする宣言では、エコアイランド宮古島が持続可能な島づくりを目指す活動であることを多くの市民と共有するため、新たに標語を設定する。

また、ゴールを明確にすることによって、市民が主役となって目標到達に向けた活動をさらに広めていくことを主眼として、以下3つのコンセプトを設定する。

- コンセプト① 超長期ビジョン ➡ 標語及び2030年、2050年の未来像設定
- コンセプト② ゴールの設定 ➡ 未来像を具体化し共有できる目標を設定
- コンセプト③ 網羅的にしない ➡ 広くビジョンを共有するため施策を絞り込む

エコアイランド宮古島宣言

生活の豊かさが増す一方で、島の自然環境への負荷は地下水汚染や海洋汚染等の形で現れはじめたことから、いつまでも住み続けられる豊かな島を目指すため、「エコアイランド宮古島宣言」を行った。

○エコアイランド宮古島宣言（平成20年3月31日）

1. 私たちは、島の生活を支えるかけがえのない地下水を守ります。

①地下水

1. 私たちは、美しい珊瑚礁の海を守ります。

②美しい海

③資源・エネルギー

1. 私たちは、みんなの知恵と工夫で、限りある資源とエネルギーを大切にします。

1. 私たちは、ゴミのない地球にやさしい美(か)ぎ島(すま)宮古(みゃ〜く)島(ずま)を目指し、一人ひとり行動します。

④ごみのない島

1. 私たちは、よりよい地球環境を取り戻し・守るため、世界の人々とともに考え・行動し、未来へバトンタッチします。

⑤未来へのバトンタッチ

1. 私たちは、緑・海・空を守り、すべての生物が共に生きていける環境づくりのため行動します。

⑥生物多様性

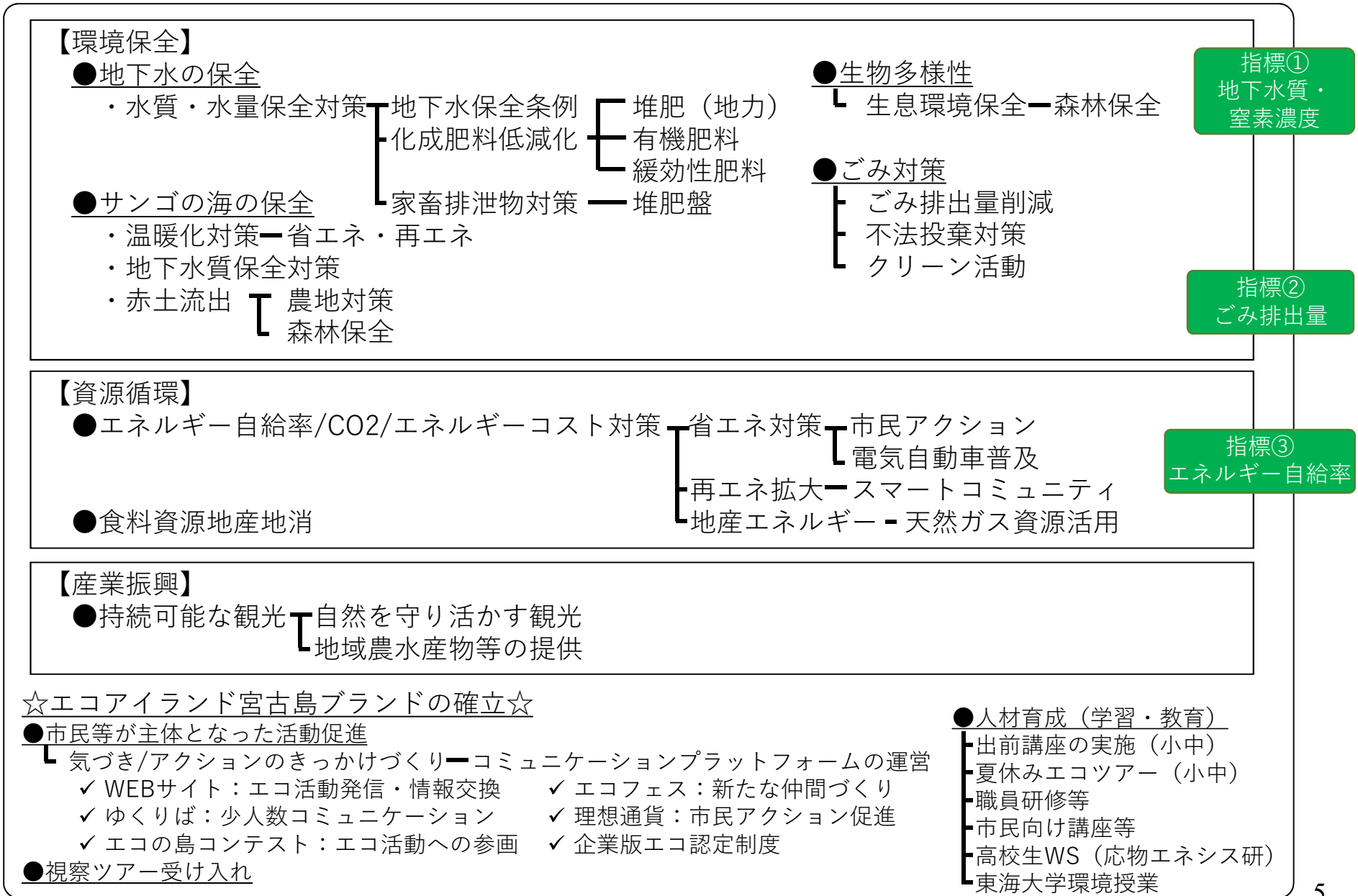
エコアイランド宮古島宣言2.0

「**千年先の、未来へ。**」

～持続可能な島づくりの取り組み～

○エコアイランド宮古島宣言（平成30年3月30日）

1. 私たち**市民**は、島の生活を支えるかけがえのない地下水を守ります。
1. 私たち**市民**は、美しい珊瑚礁の海を守ります。
1. 私たち**市民**は、みんなの知恵と工夫で、限りある資源とエネルギーを大切にします。
1. 私たち**市民**は、ゴミのない地球にやさしい美(か)ぎ島(すま)宮古(みゃ〜く)島(ずま)を目指し、一人ひとり行動します。
1. 私たち**市民**は、緑・海・空を守り、すべての生物が共に生きていける環境づくりのため行動します。
1. 私たち**市民**は、よりよい地球環境を取り戻し・守るため、世界の人々とともに考え・行動し、未来へバトンタッチします。



指標①地下水水質・窒素濃度（硝酸態窒素濃度）

基準年：平成28年度（2016）	4. 7 1 mg/L
総合計画目標：平成33年度（2021）	4. 6 6 mg/L
2030年目標：	4. 3 3 mg/L
2050年目標：	2. 0 2 mg/L

指標②1人1日当たり家庭系ごみ排出量

基準年：平成28年度（2016）	5 4 2 g/人・日
2030年目標：	4 8 8 g/人・日(10%減)
2050年目標：	4 3 4 g/人・日(20%減)

指標③エネルギー自給率

基準年：平成27年度（2015）	2. 9 9 %
2030年目標：	1 2. 9 0 %
2050年目標：	3 1. 9 0 %

基準年：平成28年度 (2016)	4.71 mg/L
総合計画目標：平成33年度 (2021)	4.66 mg/L
2030年目標：	4.33 mg/L
2050年目標：	2.02 mg/L
※水道水質基準：10 mg/L以下、1963年：1.92mg/L	

【硝酸態窒素濃度の目標値設定の考え方】

- 地下水への窒素負荷量の起源別寄与率が把握できる最新のデータは1998年。
- 1998年(平成10年)の宮古島主要13箇所の硝酸態窒素濃度の平均値は、7.03mg/L (地下水水質保全調査報告書)
- 農業・畜産・生活それぞれの対策を講じることで、将来は以下の硝酸態窒素濃度を目指す。

	1998(H10)		2030(H42)		2050(H62)	
	寄与率%	mg/L	寄与率%	mg/L	寄与率%	mg/L
農業由来 (肥料)	35.6	2.503	20	1.406	3.56	0.250
畜産由来 (家畜排泄物)	31.4	2.207	10	0.703	3.14	0.221
生活由来 (生活排水)	16.4	1.153	15	1.055	5.47	0.385
自然由来 (自然循環)	16.6	1.167	16.6	1.167	16.6	1.167
		7.030		4.331		2.023

※寄与率はH10における総量を100%とする

【主な取り組み】

- 土づくりの推進
 - 堆肥利用促進
 - 緑肥利用促進
- 緩効性肥料利用促進
- 畜産施設への堆肥盤設置促進・適正管理
- 下水道・農漁業集落排水への接続率向上
- 合併浄化槽の家庭も含めて排水負荷の低減 (そもそも汚れた水を流さない)

基準年：平成28年度（2016）	542g/人・日
2030年目標：	488g/人・日(10%減)
2050年目標：	434g/人・日(20%減)

【家庭系ごみ排出量の目標値設定の考え方】

- 市民が共有する目標値とするため、家庭から排出されるごみの量とした。
- 人口動態や観光入域客数の増減による影響を受けにくく、統計値把握が可能な指標とした。

【主な取り組み】

- 一般家庭においてごみ排出量を低減する。（リデュース）
- 利用可能なものは再利用できる仕組みづくりを行う。（リユース）
- 分別を徹底し、リサイクル率を高める。（リサイクル）
- サブ指標として、リサイクル率（ごみ排出量に占めるリサイクルの割合）を2030年：30%、2050年50%とする。

【取り組みによる効果】

- クリーンセンターにおけるごみ焼却量を減らすことで環境負荷や処理コストを低減化する。
- 廃棄物の最終処分場を延命化する。

基準年：平成27年度（2015）	2.99%
2030年目標：	12.90%
2050年目標：	31.90%

【エネルギー自給率の目標値設定の考え方】

- 宮古島市において必要な一次エネルギー量に占める地産エネルギーの割合とした。
- 基準年に対して、省エネ対策が進み、技術的な対策により再生可能エネルギーの利用を拡大することを想定。
- 環境モデル都市行動計画におけるCO₂排出削減目標を達成することを前提とした。

【主な取り組み】

- 一般家庭や事業所における省エネ行動、省エネ機器への更新。
- エコドライブの推進。
- 電気自動車の利用促進。
- 太陽光発電・風力発電の導入。

【取り組みによる効果】

- 原油価格高騰等の影響を受けにくくなる。
- 燃料調達の費用（経済）が島内で循環する。
- CO₂の排出量が減り、技術や取り組みのモデルが広く普及することで、地球温暖化対策に貢献する。

	2015	2030	2050
省エネ(電力)(%)	-	24.0	25.0
省エネ(燃料)(%)	-	17.60	21.13
E V(万台)	0	1.3	3.0
太陽光(MW)	19	100	150
風力(MW)	4.8	4.8	30
CO ₂ 排出量(万t-CO ₂)	32.3	17.9	9.8
CO ₂ 削減率(%)	-	43.9%	69.3%
再エネ電力比率(%)	12.0%	52.8%	87.0%
エネルギー自給率(%)	2.99%	12.90%	31.90%

【その他の指標設定について】

- 主要3指標（地下水の水質保全、ごみ排出量削減、エネルギー自給率向上）以外にも、エコアイランド宮古島の将来像を規定する指標を設定する。
- 広く市民や専門家等の意見を踏まえ、平成30年度における議論を通じて設定することとする。